

市政を結ぶホットライン が500号に



月二回、皆さんの手元にお届けしている広報ふじが、本号で通算五百号を迎えました。創刊号は昭和四十一年十一月二十五日の発行ですから、ここまで二十二年余の年月を要したことになります。これからも市民の皆さんとともに、すばらしい街づくりを進めるため、親しみのある紙面づくりに励みます。どうぞ、よろしく。

さて、今回は五百号を記念して、厚原東三の萩谷尚道君（丘小六年）に一日記者をお願いし、広報ふじのできるまでを紹介します。



広報ふじ一日記者
萩谷尚道君

1 編集会議

編集会議は基本的に月一回行い、内容を相談します。この日は萩谷君を迎え、特別に取材の打ち合わせをしました。



萩谷君はまだ緊張ぎみ

2 取材

内容が決まるとまず取材。萩谷記者の分担当は、来年大瀬にできる常葉学園短大の様子を担当課の皆さんに聞いて、実際に場所を確かめることになりました。



「短大ができるなんて初めて聞いた」という萩谷君でしたが、なかなか熱心

この日撮った写真は2ページに使用しました



回覧板は早く回して



とういち
渡井 當一さん
(自営業・和田町1)

（渡井さんには広報紙を地域に配る地区委員を委嘱しています）
市役所から配達されると、まず第一に自分で目を通します。市が、どういふことをしているのかが、よくわかりますね。
地区委員としては、確実に早く行き渡るかどうか気になります。皆さん忙しい世の中だけど、回覧板は早く回してほしいね。

カラーにして明るく



池上 幸代さん
(保母・中里4)

スキーやテニス教室など余暇活動に参加したいので、暮らしのたよりをよく見えています。募集記事に前回参加者の声などを載せてもらえれば、気軽に参加しやすくなると思います。

また、カラー化するなどして、紙面を明るくしてください。若い人は文字が苦手なので、イラストや写真ももっとふやしてもらえないでしょうか。

中学校の行事を載せて



小野美智代さん
(吉原三中3年生)

ふるさとの昔話や地名の由来など、いつも家族で楽しみながら読んでいます。この間載った世論調査の結果も、グラフなどが多くわかりやすく読みました。吉原二中の生徒会ではOAS運動というあいさつ運動をしています。各中学校の行事などを紹介する記事などが載れば楽しいな。

くつろぎの時間に読む



漆畑 睦夫さん
(会社員・横割6)

残念ながら毎号必ず読んでいないとは言えない読者です。でも、夕食も済んでくつろぎの時間、こたつの上のせられていたりすると読みますよ。子供が小さいので、女房は休日当直医や保健だより、我が家のアイドルなどをよく読んでいます。
公園とかスポーツ施設の紹介などを、もっと載せてくれるとありがたいよ。

500号のあゆみ



←創刊号(S41.11.25)
 2市1町の合併により、現在の富士市が誕生したのは昭和41年11月1日。それから間もない11月25日に広報ふじは産声を上げました。大きさは現在より一回り大きいタブロイド版。新生富士市の熱い息吹が伝わってくる紙面です。

100号(S46.11.5) →
 紙面の大きさはB5の変形となり、インクの色も紺に変わっています。この当時は、田子の浦港のヘドロ問題や大気汚染など公害問題がよく登場しています。



←200号(S51.3.25)
 200号は濃紺のインクで印刷されています。このころは月2回の広報ふじ以外に、「おしらせ広報」も月2回発行していました。公害関係の記事以外に古墳など文化財に関する記事も目につくようになりました。

300号(S55.7.25) →
 このころは、ごみや家庭排水・健康問題などさまざまな問題が話題になっています。毎月5日号では「ふるさとの昔話」シリーズも始まっています。



←400号(S59.11.25)
 市立中央病院のオープンや新幹線新富士駅の設置が決まるなど、ビッグプロジェクトがこのころの紙面ににぎわっています。写真や市民の登場がふえるなど、内容は現在の形に近くなりました。

あなたと

広報

ふじ

3 編集



頭をひねる萩谷君

取材から帰ると原稿を書き、レイアウトをして、写真の焼き付けなどをします。「作文は苦手」という萩谷君はちよつと苦痛のようでした。

4 校正・印刷



印刷会社も初めて行きました

原稿を出すと次は校正。広報ふじは三回の校正を経て印刷されます。本当は一日でこの段階までできませんが、印刷の仕方などを印刷会社のお姉さんに聞きました。

5 配達

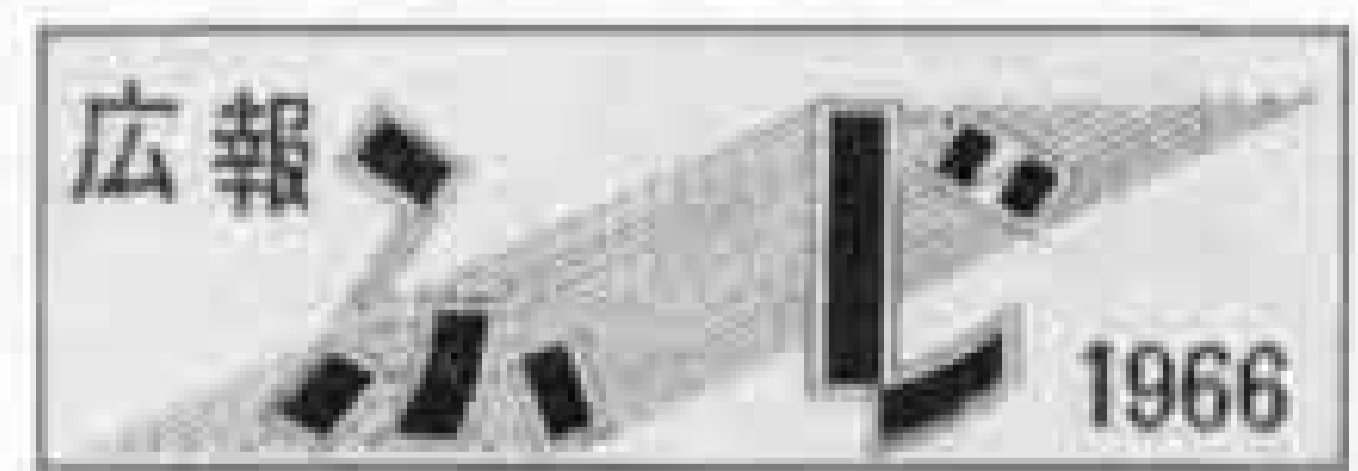


「重たいよ～」と萩谷君

印刷が終われば市役所へ運ばれた広報ふじは、市役所の総務課のおじさんが地域の地区委員さんの家へ配ります。萩谷君は三月二十日号の配達を体験しました。

題字の変遷

No.1~19



No.20~79



No.80~現在



広報ふじの題字も時代とともに、右の様に変わってきました。現在使っている題字は、昭和四十六年一月一日号のふじの文字を基本にしています。この文字は、紙の街らしさを表現したいという発想から、紙テープの様な紙製品で表現した形になっています。あわせて富士市の躍動感、発展性を示しています。